

第6次上尾市総合計画策定における提言

《A 健康グループ》

大木 晴夫

岡部 千里

小牟田 健治

能登 貢

増田 澄雄

《A 健康グループ》

理想の状態

健康寿命が長い
いるだけで健康になれるまち

この目標を達成するために、

「人の健康」「地域の健康」「まちの健康」の3つのカテゴリー
に分類しました。

《A 健康グループ》

人の健康

一人ひとりが「健康づくりに関心を持っている」「運動習慣を身に付けている」「病気の予防ができている」

「介護予防ができている」「ストレス解消ができている」などにより、自分の健康を自分で守ることができている状態が理想です。

地域の健康

「地域住民のつながりが強く」「市民の活発な社会参加」が行われ、

「市民の交流・コミュニケーションが取れる機会・場がある」状態や、「健康経営」が広く実践されている状態が理想です。

まちの健康

「健康に関する相談がしやすい」「健康診断受診率が高い」「かかりつけ医による健康管理ができている」「病院の情報にアクセスしやすい」

「医療を受けやすい環境が整っている」「公衆衛生が充実」、このようなまちが形成されていることが理想です。

《A 健康グループ》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

感染症予防対策を進めるとともに、規則正しい生活を送る、生活習慣病の予防、健（検）診を積極的に受診するなど、自分自身の健康管理に取り組みつつ、社会参加及び健康づくりに関する担い手となるなど、積極的な地域参加に努めることが必要です。

〈行政に期待すること〉

体操の参加や健（検）診の受診でポイントが貯まる制度や健康に関する市独自の認証マーク作成など、市民の健康づくりを動機づける仕組みの創出ほか、地域活動の担い手育成や、健康づくりに関する積極的な情報発信が求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《B 協働・コミュニティ》

小島	勝	関本	正弘
本城	文夫	的場	保子
山尾	三枝子	山口	直

《B 協働・コミュニティ》

理想の状態

交流・活動の場づくりができている

いつでも活動できる場所がある、地域の活動に誰もが参加できる

この目標を達成するために、

「市民活動・コミュニティ支援」「交流」「情報共有」「人権・男女共同参画・平和」の4つのカテゴリーに分類しました。

《B 協働・コミュニティ》

市民活動・コミュニティ支援

各地域単位など、歩いていける距離に市民が集える場を作り、誰もが気軽に地域活動に参加でき交流を深め、地域の支え合いを生み出している状態が理想です。

交流

国や世代を超えた「交流」が日常的にあることで、「人権・平和」といった問題をも意識できることになり、誰にとってもやさしいまちである状態が理想です。

情報共有

市民目線のわかりやすい情報発信、地域内での災害時の情報共有をすることで、地域集団による支え合いが生まれます。市民団体や行政、地域の連携により、何時でも安心できる状態が理想です。

人権・男女共同参画・平和

協働を通して誰もがまちづくりに参画でき、すべての人が平等で平和なまちである状態が理想です。

《B 協働・コミュニティ》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

市民主体でイベント・活動を行うために、リーダー養成講座への参加や積極的な意見交換をする場への参加など、教育・人権等の活動をはじめ様々な分野で情報交換・共有に努めるとともに、市民目線に立った情報を発信することが必要です。

〈行政に期待すること〉

交流活動場所の提供や担い手の育成など市民活動を支援するための仕組みづくりに努めるとともに、協働・コミュニティに関する情報のほか災害等に関する情報などの提供・発信の強化、市民目線に立った対等な協働の在り方を検討することが求められます。また、人権等に対する理解のさらなる浸透も求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《C 行財政運営》

飯塚	純	小川	和男
小川	早枝子	河原塚	透
中澤	正俊	萩原	和也
宮田	敬生		

【C 行財政運営】

①理想の状態

市民・民間等との協働の推進

この目標を達成するために、

「行政運営」「財政運営」「公共施設」の3つのカテゴリーに
分類しました。

【C 行財政運営】

行政運営

自助・共助・公助の分担を明確にし、市民との協働により効率的・効果的に事業を進め、選択と集中による事業の**重点化や効率化**を図る体制が整っている状態が理想です。

財政運営

事業のスクラップ&ビルドにより、少ない費用で効果的な事業の執行を行うとともに、歳入を増やすため、地元の雇用を増やし、人口が増えている状態が理想です。

公共施設

施設の安全性を確保するとともに、障害者や高齢者、子どもなど多様なニーズに応えられる場として機能している状態が理想です。

【C 行財政運営】

②必要な取組

行政運営

- ✓行政サービスのワンストップ化
- ✓ICT化・業務の効率化・事務作業の見直し
- ✓外部民間人の活用・NPO法人/民間事業・ボランティアとの連携
- ✓共助(地域での取組/タウンミーティング)・公助の実行できる体制

財政運営

- ✓スクラップ&ビルド手法による財政の見直し、単純なスリム化ではなく予算・配分の作り直し
- ✓変化する上尾に見合う活力ある企業の誘致
- ✓誘致するに当たり会社立地条件の改善、土地の有効活用する為に工業・農業特区の創設

公共施設

- ✓農地を含む遊休地の有効活用
- ✓誰でもいつでも利用出来る大規模公園整備
- ✓公共施設の複合化・多機能化・統廃合(具体的には、小学校等既存施設の利用されていない時間の別利用)
- ✓若い世代が子育てしやすい施設など、公共施設の戦略的な施設整備

【C 行財政運営】

③市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

自治会や地域団体、ボランティア活動を通して、リサイクル活動やイベントの企画・参画など自分たちでできることは自分たちで実施することが必要です。

〈行政に期待すること〉

財政基盤の強化のため、工業・農業に対するサポートの充実や、ボランティアや民間活力の活用など行政と市民の協働を探りつつ、行政のスリム化に努めることが求められます。

【C 行財政運営】

市長へのお願い

- ✓ **上尾市を改革しましょう！**
- ✓ **上尾市を活気有る街にしましょう！**
- ✓ **上尾市から発信しましょう！**

第6次上尾市総合計画策定における提言

《D 防災・防犯・交通安全》
市倉 育江 伊原 広茂
大澤 サユリ 大塚 常司
高橋 雅之 刀根 正克

《D 防災・防犯・交通安全》

理想の状態

安心・安全な暮らしを
実現できるまち

この目標を達成するために、

「交通安全」「防災・危機管理／防犯」「消防」「消費生活」の
4つのカテゴリーに分類しました。

《D 防災・防犯・交通安全》

交通安全

事故に遭わないため、地域の見守り体制が強化され、一人ひとりの交通マナーの意識が向上している状態が理想です。

防災・危機管理／防犯

災害に備えておくこと、犯罪に巻き込まれないことなど、平常時から意識して備えている状態が理想です。また、ウィルス感染予防の観点から新たな避難所体制の確立も大切になります。

消防

消防施設見学やAED・救命講習への参加など、一人ひとりの消防や救急に対する意識が向上している状態が理想です。

消費生活

消費者問題を考える場を創り出し、消費者被害の防止に地域ごとに取り組んでいる状態、また、地産地消を促進しつつ、リサイクル意識・食品ロスの軽減などについて市民の関心が深められている状態が理想です。

《D 防災・防犯・交通安全》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

日頃から近隣住民とコミュニケーションを取り、個人でも有事に備えた行動と冷静な判断が必要であり、交通安全や防災・防犯に関する情報共有や市民参画を通して、**分野横断的**に市民意識の醸成に努めることが必要です。また、「消費生活」でも「防災・防犯」との**分野横断的連携**が求められますが、特に高齢者の消費者被害防止については「福祉」との連携を意識して取り組みます。

〈行政に期待すること〉

自転車道の整備や防犯カメラの設置など交通安全・防犯に関するハード整備や、地域防災計画の指導や空き家バンクの活用などソフト面の仕組みづくりが求められるほか、地域のリサイクル情報の提供、避難者数などの情報発信や避難所の運営など、地域安全に関する各種取り組みのPRを行い、市民との協働・連携による安全対策が求められます。

複合災害の際は、横断的な取り組みを通して、行政だけでなく市民一体となった対応が重要になります。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《 E 福祉 》

桐原 陽子
竹村 絵里
横堀 鶴雄

鈴木 靖代
矢島 通夫

《 E 福祉 》

理想の状態

障害の有無や年齢、暮らし方などに関わりなく、
誰もが参加できるコミュニティがある状態

この目標を達成するために、

「生活福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」の分野を横断して、
「みんなにとって良いこと」を1人でも多くの人が考えている社会を実現する必要があります。だれもが福祉の受け手であり、担い手であるという考えを皆が持つことが重要になります。

《 E 福祉 》

生活福祉

「ひとり親世帯や貧困について、地域の人たちの理解がある状態」や「生活保護に至る前にセーフティーネットが働く状態」など、市民意識の醸成や支援の仕組みが整っている状態が理想です。

高齢者福祉

「安心して暮らせる」「生きがいを持てる」など高齢になっても安心感がある生活を送ることができる状態が理想です。

障害者福祉

障害のある方や高齢者が、その人らしく暮らせる社会が実現されていることが理想です。

《 E 福祉 》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

「できる人ができる時にお声がけをする」「障害者や高齢者の生活を見守る」「自分が利用した福祉サービスをSNS等で発信する」、近隣の人への気配りなど、「誰もが住みやすいまちの実現」に向かって、身近なところから積極的に交流・活動することが必要です。

〈行政に期待すること〉

歩道や施設のバリアフリーの整備などハード面の整備と、働き方改革や障害者や高齢者の相談支援、交流機会の充実などソフト面の整備のほか、福祉サービスへの認知向上など広報活動を通じた、情報発信が求められます。また、男性の育児休業取得推進など、市職員が率先して働き方改革に取り組みアピールすることが求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《 F 都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園 》

大澤 サユリ

岡部 千里

小川 和男

小川 早枝子

高橋 雅之

中澤 正俊

増田 澄雄

《 F 都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園 》

理想の状態

SDGsの実現に向けて 行政・市民一体になった都市づくり

この目標を達成するために、

「上水道・下水道、河川」「土地利用・住環境」「交通・道路」
「環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり」の4つの
カテゴリーに分類しました。

《 F 都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園 》

上水道・下水道、河川

災害時にも安心・安全な水を継続的に供給するなどライフラインが確保され、持続可能な上下水道経営が適切に運営されている事が理想です。また、浸水被害の低減のため、河川が整備され、雨水タンクが設置されている状態が理想です。

土地利用・住環境

周辺環境と調和のとれた柔軟な土地利用を図るとともに、緑地が適正に保全されることで、住みたいと思うまちと感じられる状態が理想です。

交通・道路

都市計画道路や生活道路などが整備され、自転車道の整備など自転車利用環境が整っており、各拠点へのアクセスの利便性が高い状態が理想です。

環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり

災害時も対応できるオープンスペースなどの緑地確保や大規模公園の整備ほか、SDGsに関わる取組を推進し、効率的、効果的なリサイクルが推進できている状況が理想です。

《 F 都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園 》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

SDGsの目標の理解に努めるとともに、ゴミの減量・分別、食品ロス削減に取り組むほか、若者を中心とした次世代のリーダー育成や地域の環境活動への参加、市民参画を通した条例制定など積極的な市民参加が必要です。

〈行政に期待すること〉

ハード面では、災害時にも対応できる上下水道整備や安心・安全な道路や河川整備など、災害に負けないまちづくりが求められているとともに、利便性のよい公共交通や緑や水辺環境の整備など良好な住環境の整備が求められます。また、適切な維持管理として計画的な修繕や改修（長寿命化）のほか、ソフト面では、住民がまちづくりに参加しやすい体制・仕組みづくり、ボランティアが活動しやすい環境整備など市民参加の制度づくりが求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《 G 子育て 》

飯塚	純	大塚	常司
桐原	陽子	竹村	絵里
萩原	和也	山口	直

《 G 子育て 》

理想の状態

「安全・安心に子育てできる」「頼れる」
「子どもたちの希望や自己肯定感が
生まれる」環境がある

この目標を達成するために、

「子育て」「青少年」の2つのカテゴリーに分類しました。

《 G 子育て 》

子育て

安全・安心に子育てできる環境が充実している状態が理想です。仕事と子育ての両立や母親が（精神的にも）孤立しない環境を作るためには、周りの理解や相談できるような頼れる人物が必要となり、地域で子どもを育てる意識が大切です。

青少年

多様な育ちを認めることや、地域との関わり合いを持ちながら、安心して集える場を創造すること、地域の見守り活動等の拡充により、子どもたちが自由に学べる環境が整っている状態が理想です。

《 G 子育て 》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

子育ての経験を生かしたボランティア活動など市民団体への参加や子育て失敗談、子育て世代へのアドバイス等の情報を共有するとともに、地域の青少年の見守り活動などへの参加が必要です。

〈行政に期待すること〉

子育て世代のニーズを把握するとともに、子育て施設の維持・再整備や働き手の確保のための補助金の支給などが求められます。また、地域の居場所づくりや多世代交流の場の創出など、子育て・青少年育成のための環境づくりが求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《 H文化・スポーツ 》

小島	勝	鈴木	靖代
刀根	正克	本城	文夫
矢島	通夫	横堀	鶴雄

《 H 文化・スポーツ 》

理想の状態

文化・芸術・スポーツ・レクリエーション
に多世代で楽しみながら取り組める状態

この目標を達成するために、

「文化・芸術、文化財」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」の3つのカテゴリーに分類しました。

《 H 文化・スポーツ 》

文化・芸術、文化財

上尾の歴史、文化・芸術に関する教育を「上尾学」として推進するなど、市民が子どもの頃から上尾について理解している状態が理想です。

生涯学習

市民の活動場所が確保されるとともに利用しやすい環境が整備されており、施設の利便性が向上している状態が理想です。

スポーツ・レクリエーション

気軽に運動に親しめる環境が整い、健康活動が促進されており、また、「スポーツのまち」として若者に人気のスポーツ施設が整備され、広く情報発信をすることで若者の人口増に繋がっている状態が理想です。

《 H 文化・スポーツ 》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

歴史・文化・芸術を子ども達に伝える機会の充実、文化祭・各サークル団体へ参画など、世代を超えた交流を通して、上尾について学習する機会を増やすほか、幅広い世代の市民のスポーツ・レクリエーション企画、イベントの参加を通じた地域の繋がりの強化が必要です。

〈行政に期待すること〉

市民が気軽に文化・芸術、スポーツに取り組めるよう、総合文化センターの整備や、市民意見を取り入れた文化・スポーツイベントの実施など市民参加の拡充に努めるとともに、「スポーツのまちあげお」を市外にアピールするなど、広報活動の充実が求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《Ⅰ 教育》

伊原	広茂	関本	正弘
能登	貢	的場	保子
山尾	三枝子		

《 Ⅰ 教育 》

理想の状態

質が高く、柔軟性のある教育環境

充実した基礎学力をもとに、発想が豊かな子どもが育つ

この目標を達成するために、

「教育環境」「教育活動」の2つのカテゴリーに分類しました。

《 Ⅰ 教育 》

教育環境

誰もが学びやすく、教育格差のない環境を整備し、教育の質の向上につながっている状態が理想です。

教育活動

学ぶことの大切さを理解した上で、自主的に子どもがいきいき学べるような自由な雰囲気での教育活動など、夢や希望を育む教育が実現された状態が理想です。

《 Ⅰ 教育 》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

子どもがいきいき学べる環境づくりのために、地域の見守り活動への参加や世代を超えて一緒に学ぶことで、学びの楽しさを伝えるなど、子どもとの交流を通した教育活動への参加が必要です。

〈行政に期待すること〉

教員の働く環境改善や多様な学び方の推進のために、A I ・ I C T 環境の整備のほか、少人数学級の実現など、教員の負担軽減に向けた取組み、従来の形式にとらわれない世代間交流イベントの企画やキャリア教育を通した職業体験など自分らしく学べる教育活動の実現が求められます。

第6次上尾市総合計画策定における提言

《 J 産業 》

市倉 育江
河原塚 透
宮田 敬生

大木 晴夫
小牟田 健治

《 J 産業 》

理想の状態

誰もが持続可能な働き方を実現

「産業」の理想の状態としては、「収入が安定していること」、「後継者がいること」、「働ける場があること」等、誰もが持続可能な働き方を実現できていることが目標として挙げられます。

この目標を達成するために、「農業」「商業」「工業」「観光」「勤労者・就労支援」の5つのカテゴリーに分類しました。

《 J 産業 》

農業

安定した収入の確保や後継者不足が解消された状態が理想です。

商業

独自性のある商店街の活動により他地域との差別化を図るほか、観光協会によるバックアップ体制の充実、積極的な情報発信が行われている状態が理想です。

工業

通勤環境が整った工業専用の区域の整備や各事業者が操業しやすく、従業員が働きやすい環境を整備した状態が理想です。

観光

歴史や自然など上尾の地域資源の再発見による新たな観光資源を創出や、鉄道など既存の観光資源の活用など、上尾独自の観光スタイルを確立した状態が理想です。

勤労者・就労支援

創業の機運を高め創業のきっかけづくりを行うための相談体制の確立のほか、働く人の健康管理を企業の責任で守る健康経営の実施、独自の情報発信などにより、高齢者や障害者など誰もが働きやすく、チャレンジしやすい環境づくりや健康経営が推進された状態が理想です。

《 J 産業 》

市民と行政の役割分担

〈私たちが進めること〉

元気で働ける状態を保つために、予防医学へ取り組むこととともに、農作物の提供による地産地消への貢献など、産業を通じた地域参加が必要です。また、上尾の魅力再発見や、若者への**情報発信**、新しい担い手の育成が必要です。

〈行政に期待すること〉

農業・商業・工業を維持・発展するために利用しやすい**支援制度**の仕組みづくりが望まれます。また、地場野菜の販売場所の提供、産業に特化した地域整備や地域資源を市外への情報発信などハード・ソフト面での行政サポートが求められます。